

米子市に観光農園を整備

石田コーポレーション 当面イチゴを栽培

観光農園の事前見学会でイチゴを味わう関係者＝米子市彦名新田

予約制 2月中に本格開業
外国人客主にターゲット

総合商社の懶石田コーポレーション（米子市米原8丁目、石田康雄社長）が、米子市彦名新田に観光農園を整備した。当面はイチゴを栽培。米子―香港便を利用する香港人など訪日外国人客の需要を主に狙う。将来的には、周年で収穫体験できるようにブルーベリーやブラックベリーなどを入れ、多種の果物狩りが楽しめるフルーツパークに育てたい考えだ。

米 子水鳥公園隣接地のウス6棟を建設するとともに駐車場やトイレを整備。子どもからお年寄りまで収穫体験しやすいように露地ではなく、ハウス内の高さの異なる2段の器具で約1万8千株を栽培する。

品種は酸味が少なく、実が柔らかい「章姫」が主体。鳥取県初のオリジナル品種として同県園芸試験場が開発し、

2018年10月に品種登録された「とっておき」も入れた。同品種は実の硬度が高いのが特徴だ。

2月中に本格開業し、入場料は40分で大人1800円、2千円程度に設定する見通し。日本人客、外国人客ともに当面、予約制とする。

ともにグループ会社で、農業生産法人の懶富ますシルクファーム（同市富益町）が運営し、農産物販売などの日南物産（鳥取県日南町三栄）が集客や販売事業を担う。

「とっておき」は日持ちするため、体験後の土産物に使ってもらうほか、香港への輸出向けにも供給する。需要に応じて、農園の規模拡大も計画する。

観光農園は、搭乗客数が堅調に推移するソウル、香港両便が就航する米子空港（境港市佐妻神町）やクルーズ船の入港が相次ぐ境港から車で10〜20分圏内に立地する。石田社長は「外国人に人気の果物を収穫できる施設を作ること、地域の観光振興や滞在時間の延長につながる」と話した。

（森安哲史）